選　考　基　準

本書で取り上げた人物の選考基準は以下のようになっている。

　一、本校の卒業者、すなわち、秋田高校同窓会通常会員であること。

　二、中途退学者は、同窓会会則に準ずるものとする。

　三、原則として、没後三十年を経過していること。

　四、文化勲章、文化功労者、学士院賞・恩賜賞、芸術院賞・恩賜賞のいずれかの受章（賞）者。

　　※前記基準に一部満たない対象者が散見されるのは、原則論にとらわれることなく、人物評価において満場一致をみるに到ったからにほかならない。

選考委員会に登場したその他の人物は下記のとおりである。

明治13年卒　　石　田　八　弥（鉱山学の最先端を歩み、近代化に貢献）

　明治19年中退　小　西　伝　助（鉱山・石油試掘採掘の他、近代文学史で著名）

　明治23年卒　　辻　　　兵　吉（秋田銀行頭取、貴族院議員）

明治25年卒　　蒲　原　達　也（亀田町出身の実業家）

明治26年卒　　長　嶺　俊之助（本校出身で最初の将官）

明治30年卒　　佐　野　良太郎（医師、野球界貢献）

明治34年卒　　橋　本　富　治（「種蒔く人」三羽がらすの恩師）

明治35年卒　　田　囗　謙　蔵（号松圃、スケールの大きい文化人）

明治36年卒　　石　田　直太郎（石田無得の直弟子、書家、漢詩家、

　　　　　　　　　　　　　　　　万葉集研究家）

明治41年卒　　佐　藤　六　蔵（柔道家、本校事務職員の名物先生）

明治41年中退　奈　良　環之助（民俗研究家）

明治43年卒　　石　川　真　良（野球・慶大エース、甲子園球場の設計・起工に参画）

明治43年卒　　斎　藤　武　雄（野球部、ブラジル移住第二号、カテテ米生みの親）

明治43年卒　　渋　谷　源　輔（アルゼンチン移住第一号））

明治43年卒　　進　藤　竹次郎（関西財界で活躍、東洋紡績会長）

明治43年卒　　館　岡　　剛　（本校出身で最初の神学博士）

明治44年卒　　池　田　徳　治（秋田県知事）

明治44年卒　　小　貫　正　夫（ブラジル移住功労者）

明治44年卒　　木　田　篤　敬（病院経営、本校図書館に木田文庫）

明治44年卒　　小　玉　確　治（秋田県酒造界におけるイノペーター）

明治44年卒　　平　澤　長　吉（代議士）

明治44年中退　栗　山　　　篤（ブラジル農業功労者、ラミー栽培の始祖）

明治45年中退　伊　藤　徳五郎（アメリカに柔道普及、馬産家）

明治45年卒　　石　田　友　治（号望天、キリスト教的人類愛と大正自由主義提唱）

明治45年卒　　中　村　重　謙（東京高等商船卒、世界を回った後、中村輸船会社を興す）

大正3年卒　　長　崎　惣之助（国鉄総裁）

大正5年卒　　渡　部　純　司（第一回全国中等学校野球大会準優勝、捕手）

大正6年卒　　青　柳　安　誠（医学博士、京都大学名誉教授）

大正6年卒　　佐　藤　治三郎（海軍の名将）

大正6年卒　　安　藤　安　誠（京大名誉教授、医学博士）

大正7年卒　　小山田　四　郎（刑余者の更生保護、老人福祉に尽力）

大正8年卒　　柳　谷　清三郎（柔道家、代議士、能代市長）

大正9年卒　　山　崎　真一郎（郷土史家、秋田地方史研究）

大正10年卒　　菊　池　栄　一（ドイツ文学者）

大正11年卒　　大　島　長三郎（青江舜二郎、劇作家）

大正11年卒　　佐　藤　文　雄（洋画家）

大正12年卒　　築　地　俊　龍（野球部、立教大学エース、函館オーシャン倶楽部）

大正12年卒　　藤　田　渓　山（僧職）

大正12年卒　　伊賀山　　　光（映画監督）

大正13年卒　　小　畑　勇二郎（秋田県知事）

昭和2年卒　　佐々木　義　武（代議士、国務大臣）

昭和3年卒　　長　瀬　直　諒（舞台装置美術家）

昭和6年卒　　鈴　木　　　一（代議士）

昭和10年卒　　川　囗　大　助（秋田市長）

昭和15年卒　　伊　東　　　糾（秋田高校保健体育教師から芦屋高校へ、スポーツ分野貢献）

昭和31年卒　　佐　藤　周　子（がん細胞構造体研究で猿橋賞受賞）